



経済日誌

2024年11月15日～2024年12月14日の主な出来事



11.15 地下水量 予測公表へ

熊本県は、熊本地域の地下水量の将来予測を本年度中に公表すると明らかにした。台湾積体回路製造（TSMC）をはじめとする半導体関連企業の集積や農地の減少といった近年の環境変化を踏まえた初の将来予測で、公表は2008年度以来となる。長期的な地下水涵養量の目標設定や保全策づくりに生かす。

11.17 県内バス・電鉄 全国交通IC決済 廃止初日 乗客困惑も

熊本県内で路線バスと熊本電鉄電車を運行する5事業者は16日、Suica（スイカ）をはじめとする全国交通系ICカードの使用を全国で初めて廃止した。事業者によると、目立った混乱はなかったが、観光客や県内の利用者からは「今日から始まるなんて知らなかった」「不便になる」と困惑する声も聞かれた。

11.26 東部工業団地 2026年2月完成 合志市 12月造成工事着手

合志市は25日、同市福原に整備する「東部工業団地」（約11ヘクタール）の造成工事を12月に着手し、2026年2月完成を目指す開発日程を公表した。同年3月に立地企業を決める。市によると、団地は市営で、セミコンテクノパーク西側に2区画を分譲予定。熊本県の開発許可と農地転用許可を9月に得た。

11.29 原水型周辺 将来像検討へ

菊陽町は、川原水駅周辺で計画する土地区画整理事業に関し、街の将来像の検討パートナーとして三菱商事と共同で、8日協定書が調印された。2024年度事業認可を目指す。また、同事業のスケジュールを定める協定書には、2027年度までの開発時期を2029年春以降に延期する方針を明記した。

12.2 水田湛水事業 2,500万円追加 熊本市 協力農家へ助成拡大

熊本市は11月29日開会の定例市議会に提出した2024年度一般会計補正予算案に、白川中流域（大津町、菊陽町、熊本市東部）の水田湛水事業の拡充経費として2,500万円を盛り込んだ。農地に水を張って地下水涵養に協力する農家に支払う助成金の引き上げに対応した措置。

12.3 「10分・20分構想」 アセス見据え調査へ

熊本市と熊本県が実現を目指す「10分・20分構想」の軸となる新たな高規格道路3路線について、市が環境影響評価（アセスメント）の実施を見据えた基礎調査に入ることが分かった。自然環境を調べてルート帯の選定などに生かす。「10分・20分構想」は熊本都市圏の渋滞解消に向けて、市中心部から九州自動車道のインターチェンジ（IC）までを10分、熊本空港までを20分で結ぶ構想。

12.6 子ども食堂 7年で6倍 県内185カ所

地域の子どものために無料、または低額で食事を提供する熊本県内の「子ども食堂」の数は2024年8月時点で185カ所となり、県が調査を始めた2017年の31カ所から6倍に増加した。市町村別では熊本市の87カ所が突出して多く、人吉市が9カ所、八代市と荒尾市が7カ所だった。

11.29 以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

11.30 熊本ー台湾高雄線 2月再開 台湾の航空大手チャイナエアラインが11日発表した10～12月期の法人

（入力は数分で終わります）

[会員の方はこちらから](#)